

## 日本坂トンネル火災では

いつ

1979年7月11日（敷設は1967年建設時）

どこで

東名高速：日本坂トンネル坑内下り線

なにが

車両6台の追突事故により発生した火災から、トンネル内は65時間燃え続け、大惨事となった。

どうだった

トンネル内は摂氏400度にも達し石油精製系(ビニール)保護管は熱で溶けて照明、監視TV、非常電話の機能がマヒした。しかし、ケーブルがセラダクト内に収まったスプリンクラー、消火栓は正常に作動した。又、復旧には60日間かかった。

そして

この事故によりトンネル内での防災設備の重要性が再確認された。管路で唯一残り、迅速な復旧を可能にしたセラダクトは1988年、トンネルの改修工事までそのまま利用され続けた。又、熱に強く、経年変化のないセラダクトが改修時に再び採用された事は、言うまでもない。



改修前ハンドホール内ケーブル状況

地震に耐える

丈夫な製品

トンネル火災・地震に耐えた実績

# 防災

万が一のトンネル火災も  
寄せ付けない

## 阪神淡路大震災では

いつ

1995年1月17日

どこで

淡路島北部を震源に、兵庫県南部を中心

なにが

M7.3の直下型巨大地震により引き起こされた「阪神・淡路大震災」では、死者6,400名以上、被害総額10兆円規模と発表された。

どうだった

多くのライフラインが寸断され、広範囲で全く機能しなかった。しかしながらセラダクトは、三宮～元町間鉄道高架橋下と、六甲アイランドのハンドホール取付部の一部で、最小限(ヒビ)被害が発生したが、部分補修を施し、現在も利用されている。又、JH・阪神高速等の各トンネルでも使用され、現在も異常なく利用されている。

そして

被害が最小限に収まったのは、①管1本が0.6mで接続部が多く、それが管路としては②非常に柔軟なものとして作用した結果と考えられる。又、現在もそのまま利用され続けているのは、セラダクトが①セラミック製の剛性管で②偏平や変形もなく、確実にケーブルを守り続ける保護管としての能力の高さを実証している。



六甲アイランド震災後現場写真